

2019年2月3日

一身田専修寺寺内町&関宿散策（バスツアー）の御案内

自然と文化科 企画委員会

1. 実施期日；2019年2月22日（金）雨天決行
2. 集合：西梅田ダイワハウス前 7:50 集合（時間厳守、集合次第出発）
3. 行程
 - <午前>
梅田（8:00 出発）～西名阪自動車道 or 新名神高速道路～伊勢自動車道～芸濃 IC～一身田（見学 10:30～12:30、昼食 12:30～13:15）
 - <午後>
一身田（13:30 出発）～芸濃 IC～関 IC～関宿（見学 14:00～15:00）～関 IC～西名阪自動車道 or 新名神高速道路～梅田（17:30 分頃）
4. 見学コース
 - ①一身田専修寺・寺内町-----案内：ほっとガイドの会
駐車場（10:30）～唐門～専修寺境内（休憩所でトイレ）～専修寺（御影堂・如来堂）案内～（11:15）～寺内町案内～寺内町の館（ジオラマ展示）～高田会館（12:30～13:15）～駐車場（13:30）
（注1）他の2団体と案内が重なるため、お堂内での説明ができません。
お堂内もガイドは同行しますが、説明はお堂の外となります。
（注2）寺内町の館は下水道工事のためトイレが使えません。
 - ②関宿-----案内：関宿案内ボランティアの会
駐車場（14:00）～地蔵院～関宿旅籠玉屋歴史資料館～関まちなみ資料館～駐車場（15:00）
5. 昼食
 - ・高田会館でおまかせ弁当を会食します。
6. 持ち物等 飲物・雨具・街歩きができる服装と履物・防寒具
7. 楽々コース（希望者2名）
 - ・一身田はガイド人数に余裕が出れば少人数でも案内するとのこと。実施の可否は当日決まります。実施する場合は中山専任幹事が同行します。
 - ・関宿は少人数ではガイドが付きません。また、今回は宿場の資料館を往復する1時間程度のコースなので、楽々コースは設定いたしません。

以 上

一身田専修寺寺内町&関宿歴史散策の参考資料

自然と文化科 企画委員会

1. 親鸞聖人と専修寺（せんじゅじ）

親鸞聖人は、関東各地を御教化中に、明星天子の夢のお告げを得て、五四歳のとき下野国（栃木県）芳賀郡二宮の郷（真岡市高田）の地に一字を建立し、**専修念仏（せんじゅねんぶつ）の根本道場**となされました。御本尊には、長野の善光寺からお迎えした一光三尊仏を安置し、聖人門弟の中のリーダーであった真仏上人が管理に当たられました。ここを中心とした教団は、関東各地の檀信徒の中で最も有力な教団となり、京都へ帰られた聖人からは、しばしば自筆のお手紙や、ご自分で書き写された書物などが送られて来ました。その後、高田教団は次第に発展し、専修寺は『本寺』と呼ばれて全国から崇敬を集めるようになりましたが、それを一段と飛躍させたのが第十世真慧（しんね）上人で、東海・北陸方面に教化を拡げると共に、朝廷の尊崇を得て、専修寺は皇室の御祈願所ともなりました。一身田の専修寺はその真慧上人が伊勢国内の中心寺院として建てられたものでしたが、関東の『本寺』が兵火によって炎上したりしたため、歴代上人がこちらに居住されるようになって、**一身田専修寺が「本山」**として定着しました。一身田専修寺の伽藍も二度の火災に遭いましたが、りっぱに再建され、檀信徒の崇敬はますます高まりました。聖人の数多いご真筆類は、今も大切に伝持され、教団の誇りとなっています。

2. 高田本山専修寺

高田本山専修寺は、親鸞聖人が開いた浄土真宗の宗派の一つ**真宗高田派の本山**です。第二次世界大戦の空襲にあわなかったことから、古い大切な建物が残っています。国宝に御影堂（みえいどう）、如来堂の2棟建造物と三帖和讃、西方指南抄があり、重要文化財に山門、唐門、鐘楼等11棟の建造物があります。御影堂は、江戸時代初期の寛文6年（1666年）に津藩藤堂家の強力な援助を受けて建てられた専修寺最大の建物であり、現存する国宝の木造建造物としては、全国で5番目の大きさです。御影堂には親鸞聖人の木像、歴代上人の御影を安置しています。御影堂の西側にある如来堂も国宝に指定されており、2棟の建物は「通天橋」という廊下で結ばれています。浄土真宗の教義上はこの如来堂が本堂で、「証拠の如来」と呼ばれる阿弥陀如来立像（重要文化財）を本尊として安置しています。

3. 一身田寺内町

「一身田」は珍しい地名ですが、その由来には諸説あり、奈良・平安時代の制度で、政治上功績のあった貴族に対して特別にその身一代に限って与えられた田からきたとも、律令制度の「三世一身の法」で与えられた田からきたとも言われています。一身田が大きく変わったのは寛正5年（1464年）、真宗高田派中興の祖真慧上人が、東海北陸地方の布教活動の中心として、この地に無量寿院を建立してからで、この無量寿院が現在の専修寺の前身です。その後、栃木県の高田にあった高田専修寺が戦火にみまわれて、真慧上人が一身田に移って来たことで、一身田が高田教団の中心となりました。16世紀の中頃までは、一身田寺内町は現在の区域の半分足らずの大きさでしたが、万治元年（1658年）に津藩の二代藩主である藤堂高次の四女いと姫が専修寺の門主に輿入れするにあたり、当時の専修寺の西側の土地を寄進したことによって、現在の寺内町の形となりました。明治時代になり専修寺も多くの寺領を失いましたが、明治7年には、赤門・黒門・桜門の三つの門が全て売りに出されるなど、寺内町も大きく変わっていきました。しかし、今もなお、一身田寺内町では、専修寺を始めとする多くの寺院や古い民家などのたたずまいが、往時の面影を残しています。

4. 東海道関宿

関は古代から交通の要衝であり、古代三関のひとつ「鈴鹿関」が置かれていたところです。関の名もこの鈴鹿関に由来しています。江戸時代には、東海道53次の江戸から数えて47番目の宿場町として参勤交代や伊勢参りの人々などでにぎわいました。現在、旧東海道の宿場町のほとんどが旧態をとどめていない中であって、唯一歴史的な街並みが残ることから、昭和59年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。関宿の範囲は、東西追分の間1.8キロメートル、25ヘクタールに及び、江戸時代から明治時代にかけて建てられた古い町家200軒あまりが残っています。

5. 鈴鹿関跡

鈴鹿関が初めて歴史に登場するのは、天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子（後の天武天皇）が皇位を争った壬申の乱（672年）の際、大海人皇子が鈴鹿・不破の関を固めた事によります。延暦8年（789年）、桓武天皇によって三関は廃止されますが、その後は天皇の崩御や政変などが起こるたびに儀式としての固関が行われました。鈴鹿関跡の詳細な位置や規模などははっきりとわかっていませんが、近年の調査により、聖武天皇によって整備されたと見られる西限の城壁が確認されています。

< 専修寺・寺内町 >



如来堂(左)と御影堂(右)



山門



御影堂親鸞聖人像



寺内町の町並み

< 関宿 >



関宿の町並み



高札場